

関係各位

京都府病虫害防除所長
(公 印 省 略)

病虫害発生予察情報について

下記のとおり発表しましたので送付します。

病虫害発生予報第9号 (1 1 月)

予報の概要

作物名	病虫害名	予想発生量 < 平年比 (前年比) >
チ ャ	カンザワハダニ	山城 <u>やや多</u> 丹波 並 丹後 多
	チャノホソガ	山城 並 丹波 並 丹後 並
野 菜	アブラナ科野菜 ベと病	並 (並)
	アブラナ科野菜 白さび病	並 (並)
	アブラナ科野菜 白斑病	並 (やや少)
	キャベツ 菌核病	並 (並)
	キャベツ 黒腐病	<u>やや多</u> (やや多)
	アブラナ科野菜 コナガ	並 (並)
	ネギ ネギアザミウマ	多 (並)
	ネギ ネギハモグリバエ	やや少 (やや少)

※平年とは過去10年の平均である。

■■■■■■■■■■ 目次 ■■■■■■■■■■

予報の概要 1
 予報本文 2
 今後注意すべきその他の病虫害等 5
 参考 I 近畿地方1か月予報 6
 II 用語の定義 6
 III 予報本文の見方 7

予報本文

チャ

1 カンザワハダニ

予報内容 発生量：山城 平年比やや多い
丹波 平年並
丹後 例年比多い

予報の根拠

(1) 10月中旬現在、発生量は山城で平年比やや多く(+)、丹波で平年並、丹後で例年比多い(+)

地域	項目	本年	平年値
山城	寄生葉率(%)	3.6	1.7
	寄生虫数(100葉当たり)	8.5	7.0
	発生ほ場率(%)	31.8	23.7
丹波	寄生葉率(%)	0.7	1.5
	寄生虫数(100葉当たり)	1.7	4.2
	発生ほ場率(%)	33.3	31.7
丹後	寄生葉率(%)	3.0	0.1
	寄生虫数(100葉当たり)	8.5	0.1
	発生ほ場率(%)	75.0	7.1

(2) 向こう1ヶ月の気温は平年並または高く(+)、降水量は平年並と予想されている。

発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 気温が低下するとすそ葉に移動して越冬し、翌春の発生源となる。
(2) 翌春の一番茶期の発生を抑えるには、越冬前の防除が有効である。越冬前の防除が十分でないと、翌春の一番茶期間近に発生が多くなり、防除に苦慮する場合があるので、越冬前防除の徹底を心掛け、遅くとも11月末までに終えるようにする。

2 チャノホソガ

予報内容 発生量：山城 平年並
丹波 平年並
丹後 例年並

予報の根拠

(1) 10月中旬現在、発生量は山城及び丹波で平年並、丹後で例年並。

地域	項目	本年	平年値
山城	寄生芽率(%)	12.5	11.8
	巻葉数(m ² 当たり)	5.4	11.3
	発生ほ場率(%)	72.7	51.9
丹波	寄生芽率(%)	19.3	20.9
	巻葉数(m ² 当たり)	2.8	3.3
	発生ほ場率(%)	66.7	40.0
丹後	寄生芽率(%)	0.0	7.6
	巻葉数(m ² 当たり)	11.3	2.9
	発生ほ場率(%)	75.0	32.1

発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 通常、年5回世代を繰り返し、蛹で越冬する。
- (2) 特に自然仕立て園では園をよく見回り、発生を認めたら直ちに防除し越冬密度を下げるようにする。

※今後注意すべきその他の病害虫等はp6を参照

野菜

1 アブラナ科野菜 ベと病

予報内容 発生量：平年並（前年並）

予報の根拠

- (1) 10月中旬現在、キャベツでは発生を認めず（平年並）、カブでは平年比やや少ない。

作物	項目	本年	平年値
キャベツ	発病株率(%)	0.0	0.0
カブ	発病株率(%)	28.7	47.1

- (2) 向こう1ヶ月の気温は平年並または高く、降水量は平年並と予想されている。

発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 結球開始期以降、気温が低く曇雨天が続くと発生しやすい。
- (2) 肥切れは発病を助長するので、肥培管理に注意する。

2 アブラナ科野菜 白さび病

予報内容 発生量：平年並（前年並）

予報の根拠

- (1) 10月中旬現在、ダイコンで発生を認めず（平年並）、カブで平年比やや多い（+）。

作物	項目	本年	平年値
ダイコン	発病株率(%)	0.0	0.0
カブ	発病株率(%)	0.7	2.9

- (2) 向こう1ヶ月の気温は平年並または高く、降水量は平年並と予想されている。

発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 発病適温は10℃前後で降雨が続くと発生しやすい。
- (2) 窒素肥料過多をさげ、水はけを良くする。

3 アブラナ科野菜 白斑病

予報内容 発生量：平年並（前年やや少ない）

予報の根拠

（１）１０月中旬現在、カブで発生を認めていない（平年並）。

作物	項目	本年	平年値
カブ	発病株率(%)	0.0	0.5

（２）向こう１ヶ月の気温は平年並または高く、降水量は平年並と予想されている。

発生生態及び防除上注意すべき事項

（１）気温が低く曇雨天が続くと発生しやすい。

（２）肥切れは発病を助長するので、肥培管理に注意する。

4 キャベツ 菌核病

予報内容 発生量：平年並（前年並）

予報の根拠

（１）春期の発生量は、平年並。

（２）１０月中旬現在、発生を認めていない（平年並）。

項目	本年	平年値
発病株率(%)	0.0	0.0

（３）向こう１ヶ月の気温は平年並または高く（＋）、降水量は平年並と予想されている。

発生生態及び防除上注意すべき事項

（１）発病適温は２０℃前後、曇雨天が続いた時に発生しやすくなる。

（２）発生終期に菌核が形成され土中に落ち、次の伝染源となる。菌核は土壌中で２～３年間生き残る。

5 キャベツ 黒腐病

予報内容 発生量：平年比やや多い（前年比やや多い）

予報の根拠

（１）１０月中旬現在、発生量は平年比多い（＋）。

項目	本年	平年値
発病株率(%)	0.7	0.1

（２）向こう１ヶ月の気温は平年並または高く、降水量は平年並と予想されている。

発生生態及び防除上注意すべき事項

（１）害虫の食痕や風雨による傷口等は細菌の侵入を容易にし、発病を助長する。

（２）降雨日数と発生量との相関が高い。

6 アブラナ科野菜 コナガ

予報内容 発生量：平年並（前年並）

予報の根拠

- (1) 10月中旬現在、キャベツ、ダイコン及びカブで発生を認めていない(平年並)。

作物	項目	本年	平年値
キャベツ	寄生株率(%)	0.0	1.8
ダイコン	寄生株率(%)	0.0	8.9
カブ	寄生株率(%)	0.0	0.2

- (2) フェロモントラップへの誘殺数は亀岡で平年並、京丹後で平年比やや少ない(-)。

場所	本年	平年値
亀岡	8.0	8.7
京丹後	2.0	7.3

9月第4半旬から10月第2半旬までの合計誘殺虫数(頭)

- (3) 予察灯への誘殺数は、京田辺で平年比やや多く(+)、亀岡及び京丹後で平年並。

場所	本年	平年値
京田辺	1	0.2
亀岡	0	0.4
京丹後	0	1.4

9月第4半旬から10月第2半旬までの合計誘殺虫数(頭)

発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 雨よけ栽培の場合、降雨に関係なく急速に増殖することがある。
(2) 被覆資材などを利用し、物理的防除に努める。

7 ネギ ネギアザミウマ

予報内容 発生量：平年比多い(前年並)

予報の根拠

- (1) 10月中旬現在、発生量は平年比多い(+)。

項目	本年	平年値
被害株率(%)	32.0	10.1
被害度	8.0	2.9

- (2) 向こう1ヶ月の気温は平年並または高く(+)、降水量は平年並と予想されている。

発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 年間、10世代以上くり返し、葉の表層を食害、かすり状の食害痕を残す。
(2) 葉鞘分岐部や葉折れの内側に多く寄生する。
(3) 本年6月、ネギえそ条斑病の発生が府内で初めて確認された。本病は、ネギアザミウマが媒介するアイリスイエロースポットウイルス(Iris yellow spot virus: IYSV)による病害である。本病の防除には、ネギアザミウマに対する薬剤散布や、防虫ネットやUVカットフィルムによる物理的防除が効果的である。翌春の発生を抑制するためには、秋期の防除が重要である。

詳細は、京都府病害虫防除所ホームページ：

http://www.pref.kyoto.jp/byogai/documents/tokusyuhoh20140702_1.pdf

8 ネギ ネギハモグリバエ

予報内容 発生量：平年比やや少ない（前年比やや少ない）

予報の根拠

（１）１０月中旬現在、発生量は平年比少ない（－）。

項目	本年	平年値
被害株率(%)	40.0	75.2
被害度	10.0	21.5

（２）向こう１ヶ月の気温は平年並または高く（＋）、降水量は平年並と予想されている。

発生生態及び防除上注意すべき事項

（１）幼虫が葉肉部分を加害し、白い筋状の食害痕を残す。

※今後注意すべきその他の病害虫等は p 6 - 7 を参照

今後注意すべきその他の病害虫等

チャ

1 チャトゲコナジラミ

平成26年10月中旬現在、府内全域で発生を確認している。これまで、比較的寄生率が低かった丹波でも、寄生率が高くなっている。本種の農薬による防除は、冬期（1～2月）のマシン油乳剤の2回散布が有効である。ただし、赤焼病の発生を助長するので、赤焼病の常習園や幼木園では注意する。

野菜

1 トマト黄化葉巻病

トマト黄化葉巻ウイルス（TYLCV: Tomato Yellow Leaf Curl Virus）の感染により引き起こされる病気であり、タバココナジラミ類によって媒介される。平成17年12月に府南部の抑制栽培トマトで発生を府内で初めて確認し、本年も府南部で発生を確認している。

トマト黄化葉巻病の発生・拡大を防ぐためには、発生初期の発病株の抜き取りとタバココナジラミ類の防除を速やかに行い、「トマト黄化葉巻ウイルスの伝染環を絶つ」ことが重要である。

【施設栽培】

- （１）黄色粘着板などを利用し、コナジラミの発生状況に注意する。
- （２）先端部の葉が内側に巻いているもの、葉縁が黄化しているもの、株が萎縮しているものを認めた場合、関係機関と相談の上、発病が疑わしい株は速やかに土壌に埋める等、適正に処分する。

2 タバココナジラミ類

タバココナジラミ類は世界中に分布し、多くのバイオタイプ（形態的な区別が難しく、遺伝的、生物学的に異なる系統）が存在する。本州では在来系統（バイオタイプ J p L 等）、バイオタイプ B、バイオタイプ Q が確認されている。また、10月中旬現在、府南部の施設栽培トマトで多発しているのを確認している。

バイオタイプQは薬剤感受性が低く難防除害虫であるので、以下の3点を防除対策の基本事項として、防虫ネットや黄色粘着ロール及び農薬等を組み合わせた「総合的害虫管理」が有効となる。

- ・施設内にコナジラミを「入れない」。
 - (1) 開口部の防虫ネット被覆。
 - (2) 黄色粘着ロールの展張。
 - (3) 近紫外線カットフィルムの使用。
- ・施設内・施設周辺のコナジラミを「増やさない」。
 - (1) 発生初期の防除の徹底。
 - (2) 薬剤のローテーション防除の実施。
 - (3) 天敵や微生物農薬の有効利用。
- ・施設内からコナジラミを施設外に「出さない」。
 - (1) 開口部の防虫ネット被覆。

参 考

I 近畿地方 1 か月予報 (10月18日から11月17日までの天候見通し)

平成26年10月16日
大阪管区气象台発表

< 予想される向こう1か月の天候 >

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

近畿日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。近畿太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、平年並または高い確率ともに40%です。2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

< 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%) >

	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気 温	20	40	40
降 水 量	30	40	30
日 照 時 間	30	30	40

病虫害防除所では上記の天候の1か月予報の表現を「向こう1か月の気温は平年並または高く、降水量及び日照時間は平年並と予想されている。」としました。

II 用語の定義

1 半旬のとり方

	第1半旬	第2半旬	第3半旬	第4半旬	第5半旬	第6半旬
各月の	1~5	6~10	11~15	16~20	21~25	26~最終
	日	日	日	日	日	日

2 発生量 --- 病虫害の発生程度と広がり両面を加味したものをいう。

3 平年値 --- 原則として過去10か年の平均とする。
データが10年に満たない場合は例年値とする。

4 平年値との比較

1) 時期

平年並	平年値を中心として前後2日以内
やや早い	平年値より3~5日早い
やや遅い	平年値より3~5日遅い
早い	平年値より6日以上早い
遅い	平年値より6日以上遅い

2) 量(発生量、発生面積等)

平年並	平年値並の発生で10年間に4回は発生する程度の普通の量
やや多い	「平年並」より発生が多く、10年間に2回程度の頻度で発生する量
やや少ない	「平年並」より発生が少なく、10年間に2回程度の頻度で発生する量
多い	「やや多い」より多く、10年間に1回程度しか発生しない量
少ない	「やや少ない」より少なく、10年間に1回程度しか発生しない量

Ⅲ 予報本文の見方

「予報本文」の見方をチャノコカクモンハマキを例に示します。

1 チャノコカクモンハマキ

予報内容 発生量：山城 平成比やや多い（前年比やや多い）
丹波 平成並（前年並）
丹後 例年並（前年並）

- ・「予報内容」は、今後の病虫害発生状況や発生時期の予測を平成比で示しています。
- ・平成比の見方は、「Ⅱ 用語の定義、4 平成値との比較」を参照してください。
- ・（ ）内の前年比は予想月の前年の発生量（時期）との比較です。
- ・必要に応じて地域別に示します。

予報の根拠

- （1）前年10月の発生量は、山城、丹波、丹後で平成並の発生。
- （2）4月中旬現在、山城で平成比多く（+）、丹波、丹後で発生を認めていない（平成（例年）並）。

地域	項目	4月の調査結果	4月 平成値
山城	綴葉数 (/㎡)	3.0	0.1
	幼虫数 (/㎡)	0.5	0.0
	発生ほ場率 (%)	22.7	3.7
丹波	綴葉数 (/㎡)	0.0	0.5
	幼虫数 (/㎡)	0.0	0.0
	発生ほ場率 (%)	0.0	11.7
丹後	綴葉数 (/㎡)	0.0	0.0
	幼虫数 (/㎡)	0.0	0.0
	発生ほ場率 (%)	0.0	0.0

- ・「予報の根拠」として直近の巡回調査のデータの中で主だったものを示しています。平成値も記載しているので、防除等の目安としてください。

- （3）4月中旬現在、フェロモントラップへの誘殺数は、宇治で平成比少ない（-）。

発生生態及び防除上注意すべき事項

- （1）幼虫で越冬し、春に羽化した成虫が発生源となるので、前年秋に多発した園では注意する。
- （2）通常、第1回目のふ化期は5月末～6月始めで、4回世代を繰り返す。
- （3）ふ化した幼虫は成長すると、葉を綴って食害するようになり、薬剤がかかりにくくなるので、ふ化直後の若齢幼虫期の防除が効果的である。

- ・「予報の根拠」は、巡回調査の結果、天候、フェロモントラップや予察灯への誘殺状況、指導機関からの情報等、「予報内容」で示した発生量や発生時期の予測の根拠となった事項を記載しています。
- ・文中の（-）、（+）は、予測される発生量に影響を及ぼすと考えられるもので、（-）の場合発生が少なくなると考えられる要因、（+）は発生量が多くなると考えられる要因を示しています。

- ・「発生生態及び防除上注意すべき事項」は、当該病虫害の生態、薬剤防除や耕種的防除方法の留意事項、要防除水準等を示しています。

※病虫害防除については、病虫害防除所・最寄りの農業改良普及センター又は農協にご相談ください。

詳しい農薬情報は、農林水産省ホームページの「農薬コーナー」の「農薬情報」をご覧ください。

ホームページアドレス http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/index.html

農業改良普及センター 電話番号一覧		
・ 京 都 乙 訓	農業改良普及センター	0 7 5 - 3 1 5 - 2 9 0 6
・ 山 城 北	農業改良普及センター	0 7 7 4 - 6 2 - 8 6 8 6
・ 山 城 南	農業改良普及センター	0 7 7 4 - 7 2 - 0 2 3 7
・ 南 丹	農業改良普及センター	0 7 7 1 - 6 2 - 0 6 6 5
・ 中 丹 東	農業改良普及センター	0 7 7 3 - 4 2 - 2 2 5 5
・ 中 丹 西	農業改良普及センター	0 7 7 3 - 2 2 - 4 9 0 1
・ 丹 後	農業改良普及センター	0 7 7 2 - 6 2 - 4 3 0 8

農作物病虫害情報サービス

- ・ ホームページアドレス
<http://www.pref.kyoto.jp/byogai/>

京都府病虫害防除所

〒621-0806 京都府亀岡市余部町和久成9

TEL 0771-23-9512

FAX 0771-23-6539

－農薬の使用にあたっては使用基準を遵守すること－